兵庫県立西脇北高等学校　　校訓「真心もって　手をとりあって　正しく明るく　たくましく」

「校長室の窓から」

令和８年（2026）４月２１日（火）
第７号　　発行：隈元（くまもと）　優一（ゆういち）

4月21日(月) 若手教員資質向上研修

第１回校内研修を終えて ～思考の整理を通して～

新年度が始まり、各種式典をはじめとする学校行事が続く中、日々の業務に追われる時期となっています。こうしたタイミングだからこそ、一度立ち止まり、「生徒と向き合うとはどういうことか」をあらためて整理する機会が必要であると考え、第１回校内研修のテーマを「思考の整理」としました。

始業式で生徒の皆さんに伝えた「目標設定をもつこと」「自分の長所を磨くこと」この２点についても研修の中で共有しました。中でも、「自分の長所を言語化する」ことは、生徒にとっても、そして私たち教員にとっても、意外と難しいものです。

特に若手教員の皆さんにとっては、これから教室で生徒と向き合う際の確かな力となる「考えの軸」をもつことが重要です。その軸は、日々の教育活動の中で、言葉遣いや態度、さらには授業づくりにも自然と表れてくるものだと考えています。

研修では、次期学習指導要領の論点整理、第４期「ひょうご教育創造プラン」、本校のスクールミッションやスクール・ポリシーといった根拠となる考え方を踏まえながら、「なぜそう考えるのか」という点に焦点を当てました。ペアワークを取り入れたことで、活発な意見交換が行われ、互いの考えを言語化し、聞き合う中で、多くの気づきが生まれていたように感じます。

次回の研修も、若手教員の皆さんとともに学びを深めながら、学校全体としての教育の質を高めていきたいと考えています。

〈コラム〉 春の恵みのワラビ

学校は山の斜面に建っており、フェンス際には春の訪れを感じさせるようにワラビが伸びていました。自然に囲まれたこの環境ならではの光景に、季節の移ろいを感じ、少量ではありますがワラビを摘み、あく抜きをして実際に味わってみました。

素朴ながらも春らしい味わいに、あらためて自然とともにある学校の日常の豊かさを感じるひとときとなりました。

▲フェンス際のワラビ